

福井県医師会

だより

第598号 平成23年(2011)4月



奥越の春

鯖江市 清水 元博

表紙写真説明：奥越の春

鯖江市 清水 元博

5月の初旬、大野・和泉方面に出かけた折、遅い桜に出会いました。山肌に残雪を残した連山を背景に、やわらかな春の日差しを浴びて咲きほこる桜が印象的で思わずシャッターを押しました。

## 醫 縫 録

# 公立病院改革と地域医療

公立丹南病院長 白 崎 信 二



近年、多くの公立病院において、損益収支をはじめとする経営状況が悪化するとともに、医師不足に伴い診療体制の縮小を余儀なくされるなど、その経営環境や医療提供体制の維持が極めて厳しい状況になっています。このため、総務省から「公立病院改革ガイドライン」が示され、「経営の効率化」、「医療の再編ネットワーク化」、「経営形態の見直し」などの抜本的な改革が求められており、さらに、二次医療圏内での複数の病院の経営の統合なども述べられています。しかし、このようなガイドラインは、机の上ではきれいに整えられたとしても、現実的には、それぞれの自治体やそこで働く職員の思惑などから、そう簡単に進む話ではないように思われます。しかし、一方、わが国はすでに超高齢化社会に突入し、癌、脳血管疾患、虚血性心疾患等は益々増えていくものと予想され、急性期→亜急性期→慢性期という治療の流れの中、たとえばそれが癌であっても、継続的な医療を必要とする時代となりました。また、このような状況の中、福井県でも急性期医療は少数の大病院に集中する傾向が進んでおり、その後の亜急性期～慢性期の治療を担う医療機関への転医の流れが加速し、さらに在宅医療の重要性も増していくものと予想されます。このように、医療機能の分化、役割分担の明確化が進む状況においては、公立病院の改革も含めた医療の再編ネットワーク化や密接な医療連携は避けて通れない課題となってきています。私どもの公立丹南病院は、丹南二次医療圏の中核病院であり、急性期医療を中心とした総合的の病院として、地域住民の健康を守り、二次救急の拠点病院、災害時の拠点病院、さらに、へき地医療支援の拠点病院としての役割を担っています。この丹南二次医療圏には、公的医療機関として他に、越前町の国保織田病院、診療所として南越前町に今庄診療所と河野診療所、

池田町に池田町診療所があります。この二次医療圏内には福井・坂井二次医療圏にあるような大病院は一つもなく、医療機関の再編ネットワーク化などという大げさな事は必要ないようですが、一般開業医の先生方と共に地域医療連携をさらに密にし、先に述べたような課題を念頭に置きながら、お互いが有機的に連携し、効率的で質の高い医療を地域住民に提供していけるよう努力していきたいと思っている所です。

公立丹南病院は、丹南地域の5市町で構成する一部事務組合を開設者とし、公益社団法人地域医療振興協会を指定管理者とする公設民営方式にて12年前より運営されていますが、公立病院改革ガイドラインにおける経営形態の見直しという点においては、まさに時代を先取りしていたと言ってもよいのかも知れません。この公益社団法人は、「わが国の地域医療の確保と質の向上」を目的として設立され、現在、全国で約50の病院や診療所などを主に公設民営方式で運営しながら、へき地医療支援などの事業を展開しています。福井県内ではもう一つ、おおい町で有床診療所と老人保健施設の複合施設をやはり公設民営方式(指定管理者制度)にて運営しています。

最後になりますが、公立丹南病院は開院以来の念願であった新病院建設が、平成22年7月に始まりました。順調に進めば、平成24年9月頃すべての工事が完了する予定となっています。病院機能としては現在と大きな変化はありませんが、丹南地域の中核病院としてさらなる尽力をしていく所存ですので、今後ともご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。